

親子関係に対する子どもの認知と子の精神的強さとの関連

Relevance Between Children's Cognition Toward Child-Parent Relationships and the Mental Strength of Children

朝 日 志 帆
Shiho ASAHI

岡 本 吉 生
Yoshio OKAMOTO

日本女子大学大学院紀要
家政学研究科・人間生活学研究科
第 24 号

親子関係に対する子どもの認知と子の精神的強さとの関連

Relevance Between Children's Cognition Toward Child-Parent Relationships and the Mental Strength of Children

朝日志帆* 岡本吉生**

Shiho ASAHI

Yoshio OKAMOTO

Abstract The purpose of this study is to examine the relationship between the children's cognition toward child-parent relationships and their mental strength. Eleven university students were investigated with semi-structured interviews and a GHQ30 questionnaire. As a result, the group that scored the most in GHQ30, which is supposed to have vulnerabilities, consisted of many "nice guys" who do not rebel against their parents, and there are many youths who are sensitive in interpersonal relationships.

Key words: Cognition 認知, Mental Strength 精神的強さ, GHQ30 Questionnaire GHQ30 質問紙, Vulnerability 精神的脆弱性, Sensitive 細やか

1. はじめに

現代の日本は核家族化や共働き世帯の増加により、家族の形態や関わり方が多様化している。核家族化が進む中で、親子関係が子どもに与える影響は大きい。親子関係が子どもの人格形成に影響することは知られているが、理想の家族像が多様化する現代において、親子関係が子どもにとって具体的にどのような影響があるのか明らかにしたいと考え、本研究を始めるきっかけとなった。

親子関係に生じるストレスは子どもの人格形成に様々な影響を及ぼす。その中でも、筆者は親子関係で生じるストレスと精神的健康度の関連に着目した。精神的健康度はストレスを受けることにより変化する。ストレスにより精神的に強くなる場合もあるが、激しいストレスを一度に感じた場合や不安が強すぎる場合には心身に支障が生じる可能性があ

る。そこで筆者は、ストレスの量と質の二側面を考慮しながら親子関係を調査する必要があると考え、親子関係の中で受けるストレスの量や質が子どもの精神的健康度に反映されると仮定した。

本研究では、GHQ30を使用して精神的強さを計る上で、GHQの概念とその有効性を検討するため大坊(1993)を参考にした。GHQはおおむね12歳以上の質問文を理解できる者に実施できるものであり、各項目を読み、4種類の選択肢のいずれか自分の状態にあてはまる欄に○を記入する。本研究で使用するGHQ30は一般的疾患性(一般因子)、身体的症状、睡眠障害、社会的活動障害、不安と気分変調、希死念慮とうつ傾向の下位因子(尺度)から構成されている。神経症者、大学生、健常者を分析対象にし、有効性を検討した結果、すべて有意な正の相関関係を示していた。各群の平均値を比較すると、神経症者>大学生>健常者と各群間に有意差が認められた。なお、男女間には有意差は認められなかった。また、大学生の所属学部によってGHQ30の得点に違いがあり、文系、芸術系学部の得点が高く、理工系学部の得点が低いこと、男性よりも女性で高いことを示された。この得点が高い者は、大学

* 家政学研究所 児童学専攻
Graduate School of Home Economics, Division of Child Studies

** 児童学科
Child Studies

生活への満足度が低く、進路について未定や悩みを抱えている傾向がある。

本研究では、親子関係の認知と子どもの精神的な強さとの関連と、子どもの精神的な強さに影響を与える親の関わり方の特徴を明らかにする。

2. 方法

(1) 調査対象者

調査対象者と調査の詳細を Table 1 に示す。調査対象者は都内の大学に通う大学生 11 名（男子 5 名 女子 6 名）である。大学生への調査としたのは、現在までの親子関係を振り返り、辛い経験や親への反抗等について冷静に判断し回答できると考えたためである。

Table 1 Object

対象者	性別	年齢	生活形態
M1	女	21	実家
L1	男	23	実家
L2	女	22	実家
H3	女	22	一人暮らし
H2	男	22	実家
L3	女	22	一人暮らし
L4	男	21	実家
M3	男	21	一人暮らし
M2	男	20	実家
H1	女	20	実家
H4	女	20	実家

(2-1) 半構造化面接

本論文の研究の目的を明らかにするため、半構造化面接を用いた。対象者の家族の関係性はさまざまであるため、対象者が自由に回答できるようにした。対象者の状況や回答内容に応じて質問の表現や順序、質問内容を変化させ、対象者の語る言葉や背景を重視し面接を行った。所要時間は一人あたり 40 分から 1 時間程度であった。

(2-2) GHQ30

本研究で調査対象者の精神的な強さの指標として GHQ30 を用いた。GHQ30 は 30 項目の質問と 6 つの因子からなり、一つの因子は 5 点満点で評価される。因子別の得点で軽度の症状や中等度以上の症状と判断することができる。

(3) 方法

本研究では、大学の教室など回答者がインタビューに答えやすい場所を選び、個別に調査を行った。まず、回答者に GHQ30 の質問紙を渡し、10 分程度の回答時間を設けた。その場で筆者が GHQ30 の回答結果を集計し得点を出した後、インタビューを開始した。筆者が事前に用意した質問項目の他に、回答者の話の流れに沿って、必要と思われる質問を加えた。

3. 結果

(1) GHQ30 得点の結果

GHQ30 の回答結果を Table 2 に示す。GHQ30 の

Table 2 GHQ30 Scores

回答者	性別	一般的疾患傾向	身体的症状	睡眠障害	社会的活動障害	不安と気分変動	希死念慮うつ傾向	GHQ30 得点
L1	男	0	1	0	0	0	0	1
L2	女	0	2*	0	1*	0	0	3
L3	女	1	0	0	0	2*	0	3
L4	男	1	1	2*	0	0	0	4
M1	女	1	2*	0	0	2*	0	5
M2	男	0	2*	1	1*	1	0	5
M3	男	1	2*	2*	0	0	1*	6
H1	女	1	2*	1	0	4**	2**	10
H2	男	1	1	1	3**	4**	1*	11
H3	女	2*	1	2*	2*	5**	1*	13
H4	女	2*	2*	2*	1*	4**	3**	14

* …軽度の症状

** …中等度以上の症状

総合得点から、回答者の精神的な強さを分析する。

総合得点の得点が低いほどストレスを感じにくい
ため精神的に強く、得点が高いほどストレスを感じ
やすいため精神的に弱いと位置付けをした。そして、
11人の回答者を得点別に低群、中群、高群に振り
分けた。

低群……総合得点 1～4 (L1, L2, L3, L4)

中群……総合得点 5～6 (M1, M2, M3)

高群……総合得点 10～14 (H1, H2, H3, H4)

(2) 質問項目別に見た低群・中群・高群の特徴

GHQ30の結果とインタビューの回答内容の関連
性を明らかにする。

面接の回答を質問項目毎にまとめ、GHQ30の低
群、中群、高群にどのような相違点があるのか検討
する。

【質問1】 普段どのような場面でストレスを感じま
すか？

ストレスを感じる事に関して、低群は物理的な内
容、中群は周囲との不一致を回答しており、精神的
な強さによって回答が共通していた。高群は周囲か
らの評価を気にし過ぎる点が特徴的であった。

低群において、L2, L3, L4はストレスを感じる
事について、「やるべきことが重なった時」などの
物理的な要因を共通して挙げた。L1は人間関係に
おいて自分の行いに対して理解されたり褒められ
たりするといった「対価」が得られなかったことが不
満だったと回答していることから、「人間関係の中
で生じる対価」という物質的な観点から語っている
ことが分かった。

中群において、M1, M2, M3の3人は、「自分と
周囲の不一致やずれ」からストレスを受けるとい
う回答が共通していた。自分の意思と周囲の環境が
一致していない場面でストレスを感じていた。

高群において、H2とH3の回答が共通しており、
対人関係の中で自分の行動を後悔し、気にし過ぎて
しまうことがストレスであることが分かった。この
2人はネガティブな出来事が起きた際、他人では
なく自分を責める傾向がある。H4は自身でスト
レスを感じ取ることができず、突然爆発したように怒
ると回答した。H4自身が周囲に対応するために自
身の気持ちを抑えていることが分かる発言が多かっ

た。H2, H3, H4の3人は、人間関係の中でスト
レスを感じ、我慢したり自分を責めたりすることで
ストレスを自身の中に溜め込む傾向があった。

【質問2】 ストレスが溜まった時の状態とその対処
法を教えてください。

GHQ30の得点に関わらず、回答者は「自分の好
きなことをする」「人に話す」という方法でスト
レスに対応していることが分かった。その中でも、
L1, L2, L3, M1, M2は自分のストレスが溜まっ
ている状態を外に発信する傾向があった。

低群において、L1, L2, L3は人に話すことでス
トレスを解消していると語った。L4は普段からス
トレスを感じる事が少なく、対処する機会自体が
少ないという回答だった。

中群において、M1, M2は人に話すことでスト
レスを解消していると語った。M3はストレスがすぐ
に解消されることが少なく、時間の経過を待つとい
う回答だった。ストレスが溜まった時の状態は3人
が共通して「無口になる」「口数が減る」と回答した。

高群において、H2はストレスを受けても全く人
には話さないと語った。H3, H4はこの質問では人
に話すことは挙げなかったが、他の質問の会話中に
人に話す様子を語った場面もあった。H3は普段の
人間関係の中で聞き役になることが多く、単に人と
話すだけでは自身のストレスを十分に発散できてい
ない様子だった。H4はインタビュー中に、周囲の
人が感情を爆発させている場面を見ると、「家でや
ればいいのに」と思うと語り、ストレスを表に出す
ことに抵抗があるようだった。

表面的に大きな差は見られなかったが、GHQ30
の得点が低い方がストレスを外に向けて発散し、得
点が高くなっていくにつれて自分自身の中で解決し
ようとする傾向があると言える。

【質問3】 父親と母親との関わりの中で違いがあれ
ば教えてください。

低群において、L1は父親と母親との関わりを意
識的には区別していないと回答した。L2は性格が
母親と似ていて、共通の趣味があるため気が合う
が、父親にも母親と同様に何でも話せること語った。
L3は父親と母親とも会話をしますが、父親が長時
間話を聞けない性格のため、大事な話は母親にするよ
うにしていると話した。L4は母親が家庭内のこと

を管理しているため、金銭的な相談等は母親にすると回答した。

中群において、M1は両親の離婚により現在父親とは会っていないが、父親と暮らしていたときも仲は良くなかったと話した。M2は両親と話す際、話す内容を父親と母親の役割に応じて分けている。M3は意識的に両親との関わりで差を作らないようにしていると語り、帰省する際の連絡も父親と母親に交互にするようにしているという点が特徴的だった。

高群において、H2、H3、H4は片方の親に対する不満を抱える様子が見られた。H2は父親に対し怖いというイメージを持ち、父親に自分の話をしようとは思わないと語った。H3は母親に対して、母親の口調がきついため無意識に関わりを避けてしまっている。H4は後の質問で、父親について突然怒り出すと語った。この3人は片方の親に対して「怖い」「きつい」「話しにくい」というイメージを持っている。高群の4人中3人が片方の親にきついというイメージを強く持っており、関係を避ける傾向が見られた。低群や中群にはこの傾向は見られなかったことから、高群の特徴的な側面であると言える。

【質問4】親に対して不満はありますか？（資料参照）

低群において、L1は親を尊敬しているため不満が無いと回答した。L2は小さい頃に両親が共働きのため母親が家にいないことが不満だったと語った。L3は親に話を聞いてもらう際の親の対応を不満として挙げた。L4は、親から生活面のことを注意された際に自立したいと感じると話した。L2、L3、L4は親への不満をそれぞれ語ったが、一方で不満に対して自身で解決策を見出していることも分かった。L2は両親が共働きだったことで小さい頃から海外旅行に行けたこと、L3は親の対応への不満はあるが今までと比べると改善していること、L4は大学を卒業し就職する時に実家を離れると決まっていることを話し、不満に対して自身で折り合いをつけているようだった。

中群において、M1は門限が厳しい点に不満を抱いていた。M2は、M2以外の家族が感情的に喧嘩をしていることを不満として挙げた。M3は、親が物を与えることで愛情表現をし、言葉での愛情表現が少ない点に不満だと語った。M1とM3は低群と同じように、不満に対して自身で折り合いをつけて

いた。M1は門限に関しては親が自分のことを心配していることを理解し、M3は不満はあるが愛情表現として受け取るようにしていると話した。M2は、M2以外の家族が感情的に喧嘩することを不満として挙げたが、自身の不満自体を解消する策は無い様子だった。

高群において、H1は父親の口調に対し不満を抱えているが、父親との喧嘩の際には思ったことをはっきり伝えていることが分かった。H2は父親からの干渉を不満に感じていた。H3は、生活に対しての母親の過干渉を不満に感じている。H4は父親が突然怒り出す点が不満だと語った。H2、H3、H4は親に対する不満を親に直接言うことはほとんどないという点が特徴的であった。

この質問に対して不満に感じていることは様々であったが、GHQ30の得点によって、不満に対して解決策があるかどうかの違いが見られた。

低群では不満はあるが、不満に対する解決策を見出し、納得している様子が見られた。中群も低群に近い様子が見られたが、低群よりも不満を親に言わずに自分の中に溜め込む様子が見られる。高群は不満の原因となることの解決策が見つかっていない様子が分かる。特にH2、H3、H4は、不満に思ったことを伝えたり気持ちを切り替えるための直接的な解決策を見つけたりできていない。自分の中に不満を溜め込んでいるため、不満がストレスとなり、そのストレスを十分に発散できていないのではないかと考える。

【質問5】関わりの中で親とぶつかることはありますか？（反抗期や喧嘩で言い返すことも含めて）また、どのように仲直りしていますか？（資料参照）

低群において、L2、L3、L4は親に反論する様子を語った。L2は、母親との言い合いの際に父親が仲裁が、父親が不在の場合は母親と感情的に思ったことを言い合い、L2が泣いて部屋に籠り、次の日にはリセットされていると語った。L3は電話で母親と言い合いになるが、途中で笑いが起きて和やかな雰囲気になった結果、喧嘩が終了すると話した。L4は日常生活の中で母親の注意を受けることが多く、それに対し軽い口調ではあるが反論することがあると回答した。母親に表面上従った場合でも反抗的な気持ちはあることも話した。

中群において、M1は、母親からの注意が正論で

あるため反論できないと語った。自身で悪い事をしていると納得している印象だった。M2は、一方的に親から注意されることが多いが、反論せず受け流すと回答した。M3は、表面上は親の言うことに合わせ、反論はしない。しかし、注意された後に親に従わないという反抗を見せることも語った。M2とM3に関しては、親から納得できない内容を言われた際、「ストレスが溜まる」「イラッとする」との発言があった。

高群において、親に反論すると回答したのはH1のみであった。H2は親から一方的に起こられることが多いと話した。H3は進路決定において、親の言う通りにしてきたという経験があるが、親に反論することはなかったという。H4は親に反抗せず、その理由として怒られるのが面倒だと語った。H2、H3、H4においては、不満に似た感情は芽生えるが、H2、H3、H4は反抗することを良いと思っていないため、感情を抑えているように感じられた。

喧嘩の際に言い返すまたは言い返さない理由や、親に対して反抗的な感情を持つかという点においてGHQ30の得点によって違いが見られた。低群は思ったことを親に言葉で伝える傾向がある。中群は反論をしない点が共通していた。M1は母親の言う事が正論であるため反論する場面は無いようだが、M2とM3は親から何か言われた際に反抗的な感情が芽生えても反論することが少ないため、その場で感じたストレスを溜め込んでいると考えられる。H1以外の高群は反論せず、ぶつかること自体を面倒だと捉えており、無意識のうちにストレスを溜めやすいことが分かった。

4. 質問内容別に見た低群・中群・高群の特徴

GHQ30の得点によって回答に様々な共通点が見られた。低群と高群は回答結果に違いが見られた点も多く、また中群は、低群と高群の中間に位置する内容の回答や、低群と高群の傾向を両方含んだ回答が多かった。

質問1～2を「ストレスに関する質問」、質問3～5を「親子関係に関する質問」とし、この二種類の質問内容に対する回答結果を、GHQ30の得点群別に以下にまとめる。

(1) ストレスに関する質問の結果

(1-1) 低群

低群は、物理的な要因からストレスを感じる点が共通していた。ストレスが溜まった際には人と話すなど、ストレスが溜まった状態を外に向けて示す傾向がある。

(1-2) 中群

中群は、自身と周囲とのギャップが生じた時にストレスを感じるという共通点があった。ストレスを感じた際の状態は、「無口になる、口数が減る」という点も共通していた。M1、M2はストレスについて人に話す、M3は人には話さないと回答した。

(1-3) 高群

高群は、ストレスに関してH2、H3は自分の行動を後悔する時と共通の回答をした。H4は自身でいつストレスが溜まっているのか分からないと語った。H1は語学の授業という物理的な原因を挙げた。対処法はH1は人に話す、H2、H3、H4はこの質問では人に話すことを対処法としては挙げなかった。

(2) 親子関係に関する質問の結果

(2-1) 低群

父親と母親との関わりに関して、意識的に区別してはいないが、関わりに違いがある場合、父親と母親の性格や家庭での役割を考えて割り切っている、という特徴が挙げられる。親への不満について回答した3人は、不満はあるがその対処法や解決策を見出していた。また、この3人は親との関わりの中で喧嘩に発展し、親に対し言い返す点も共通していた。自分の考えを伝えた上で、自分の考えを通すか、親に従うか自身で判断することが分かった。親との関わりの中で現在の性格等に影響することがあり、その影響が行動する上でのモチベーションに変化していることも分かった。また、インタビューの中で、進路等に関する親からの干渉が少なく、基本的に親は自分のやりたいことを応援してくれているという回答が共通していた。

(2-2) 中群

父親と母親との関わりに関して、「別居している」「区別している」「意識的に区別しないようにしている」と回答内容はそれぞれ違いがあった。親とのぶつかりについては「一方的に親から怒られる」「言い返さない」という共通点があった。

(2-3) 高群

父親と母親との関わりに関して、4人中得点が高い3人(H2, H3, H4)が片方の親に対して「怖い」「きつい」という強いイメージを持っていた。この3人はそのイメージが原因で片方の親との関係を避ける傾向にある。また、不満についての質問では3人共「きつい」と感じている親に対しての不満を挙げた。H1の親子関係は良好であるが、父親の言い方が嫌味っぽいという点が不満に感じているようで、自ら具体的な様子を語っていた。H2, H3は一方的に親から怒られる点が共通しており、H4は最初から怒られるような行動を取らない。H2, H3, H4は言い返さない点も共通しており、ぶつかることを面倒だと捉える傾向があった。親からの影響に関しては、H2, H3, H4の回答において、親密だと感じている親からは心理的な影響を、親密でないと感じている親からは物理的な影響を挙げる傾向がみられた。また、インタビューの中でH2とH3は進路や就職に関して親から色々なことを言われると語り、干渉されるのが嫌だと話した。

5. 考察

この調査によって低群、中群、高群それぞれの特徴が明らかになった。中群は低群と高群の中間に位置する特徴が多かった。

低群は、インタビュー中の会話の中でも、物事を楽観的に捉える傾向が他の回答者よりも多い印象であった。低群の4人は自分の考えを持ち、自分の親に伝えることができるため、言いたいことを言わずに我慢してストレスが溜まるといった状況は少ないと考えられる。ストレスが溜まった際には人に話すことで、ストレスを発散していることが特徴だった。

中群では、親に反論しない点が特徴であった。自分の意見を言わないため自分の中にそのストレスを溜め込んでいると考えられる。筆者は面接の語りを聞く中で、中群の3人の場合、日常の小さなストレスの積み重ねがGHQ30の得点に反映されているのではないかと考えた。中群は親が自分のやりたいことを尊重してくれるという発言もあったため、自己決定に関する満足感は得られていると考えられるが、親の言動に対し不満を抱えているが言い返さずに自身で溜め込んでいるため低群と比べてGHQ30の得点が高くなった可能性が考えられる。

高群の4人は、低群や中群や高群と比べるとGHQ30の総合得点が高く、回答結果の6つの因子に着目すると、不安と気分変調の項目において得点が特に高くなっていた。高群は職業選択や人間関係で不安を感じやすい特徴があり、ストレスを感じた際に無気力になって落ち込むなど、気分が下がる様子が語りから読み取れた。また、H2, H3は親が進路や職業選択に口を出す場面が多く、H2, H3自身も「干渉して欲しくない」と感じている様子だった。H4に関しては、母親の言うことを絶対だと思っており、親に反抗してはいけななど、他の回答者と比べるとH4の中には強いルールのようなものが存在する印象を受けた。自分の意見を言わないことについて、面倒であると感じ、かつトラブルを起こさないために自分を主張しないことは良いことだと考えているが、自分の考えを抑えることによりH4にとってストレスになっているように感じた。H4は親に怒られない「良い子」でいるが、無自覚のうちに自分で自分を抑え込み、ストレスを溜めていると考えられる。

高群の4人が語る様子は、よく考えながら、言葉を選びながら発言している点が印象的であった。このことから筆者は、高群の4人が語る様子を見て、この4人は「謙虚」な人物であると感じた。このような、対人関係において問題を起こさないように配慮する力を備えた人物の精神的脆弱性が示されたことは、非常に興味深い結果であった。自身の考えを示さないことで問題を起こさないようにするという周囲に配慮した行動の結果、自身のストレスが蓄積されていることが考えられる。

今後の課題

本研究ではGHQ30の値の高さによって親子の関わり方の違いが見られた。特徴的であったのは、GHQ30の高群が「良い子」とされる性格だったことである。親と関わる際にも反抗しない良い子であるが、自身の中でストレスを溜めてしまうプロセスに着目し、今後の研究に繋げたい。

〔要約〕

本研究は、親子関係に対する子どもの認知と子どもの精神的強さとの関連を明らかにすることを目的とした。大学生11名を対象とし、半構造化面

接に GHQ30 を併用し、調査を行った。その結果、精神的脆弱性があるとされる GHQ30 の高群は、低群、中群に比較して、親子関係に不満がありながらも親に反抗することのない「良い子」や、対人関係への気遣いが細やかな人物が多いことが明らかになった。

謝 辞

本研究の調査にご協力いただいた方々に深く感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 大坊郁夫：日本版 GHQ 心理アセスメントハンドブック、第2版第28章、P319-327 (1993)

参考文献

- 1) 花嶋裕久：男性のひきこもり者から見た父子関係と父親から見た父子関係—ひきこもりの家族における父-息子関係の諸特徴—、家族心理学研究、第21巻第2号、P77-94 (2007)
- 2) 谷：多次元自我同一性尺度 心理測定尺度集 I P86-90 (1997a;1997b;1998;2001)
- 3) 永房典之：なぜ人は他者が気になるのか？—人間関係の心理、金子書房、(2008)
- 4) ウヴェ・フリック：質的研究入門—〈人間科学〉のための方法論、春秋社、(2007)

資 料

面接によって得られた対象者の特徴的な言語報告を以下に示す。

【質問4】親に対して不満はありますか？

(1) 質問4に対する低群の特徴的な言語報告

L1	ない。
L2	最近は無。昔は、母親が働いてるのがすごい嫌で、なんで家にいないんだろうって思ってた。小学生ぐらいの時って両親共働きってそんなになくて、何で私だけ家にいないんだろう、みたいな。中学生ぐらいになってから言った。嫌だったって。でもその時は嫌だったけど、親が二人とも働いてたからこそ海外旅行行ったりとかっていうのはあったから、あんまり文句言っちゃいけないなって。

L3	とりあえず父親は人の話聞いてほしい。今言ったことを聞き返してきたりとか。思い込みとかも激しいから、あんま話通じない時が結構ある。お母さんは、昔色々あったから今は話聞いてくれるようにはなったんやけど、全部黙って聞いてくれたら最高やなって。
L4	自立したいんだよ。やってないことに対して注意してくる、でも俺は、まあ後でやるからいいじゃんって思ってる。 例えば、まだ車も貸さないよ、みたいな。今度友達と行くから車貸して、いやまだ駄目だよって言われたら、いやこの前できてたじゃん、みたいな感じでは言う。

(2) 質問4に対する中群の特徴的な言語報告

M1	うるさいなとは思ってたけど、やっぱり心配して言ってくれてるんだなって最近理解し始めてる。門限とかあるし。門限に関しては一回言ったけど、負けたよね。
M2	協調性を持ってほしいなって思いますね。子どもっぽいところあるなって思ったりするんで。感情的に動くんで、二人とも、もう少し冷静になればいいのって。
M3	物を与えるっていうのに頼る傾向があるから、もう少し言葉で表現する人間になってくれても、とは思ったり。高校の時は特に言ってほしいって思ってたから、不安はあったね。

(3) 質問4に対する高群の特徴的な言語報告

H1	なんでそういう言い方になるんだろうって思う時もあるんですけど、あんまり覚えてないかな。だからめっちゃめっちゃ気になるみたいな感じじゃないのかもしれないですね。
H2	親も深入りしない感じはあるかな。ルールを守ってなかったら怒られるけど。むしろ最近とか色々将来のことで言われたりとか、そういったときはさすがに突っ込まれるから、すごい不満は感じる。踏み込まれたり。
H3	お母さんの話なんだけど、あんまり私無駄遣いしてないしそれくらい良くない？って感じのことなんだけど、親が学生だった頃は本当に節約してたらしくて、学生のくせに贅沢しすぎじゃない？みたいな感じのことを言われるのが、ちょっと嫌かな。
H4	特に無いけど、パパは突然キレるからやだ。ずっと黙ってるくせに急に怒ったりするから、なんなの？って思う。そんなんで怒る？みたいな。もっと違うところあったべって思いながら、ああ、はいはいって。

【質問5】 関わりの中で親とぶつかることはありますか？（反抗期や喧嘩で言い返すことも含めて）また、どのように仲直りしていますか？

(1) 質問5に対する低群の特徴的な言語報告

L1	ないね。(反抗をしない理由は) リスペクトしてるからじゃないの？お父さんがすごいなって思ってるからね。
L2	結構私もママも感情的になりやすいから、わーって言って終わっちゃうから、そうなる話し合いにならないことが多い。私のこと本当に分かってんの？みたいと思うぐらいの時もあって。お母さんが一番気にかけてるっていう意味ではあると思うけど、言い方がきつくて、それで何でそんな言い方すんの？みたいな、うわーってなると私が泣いて部屋にこもることが多いから。そのまま寝て、朝起きて、その流れで自然と喧嘩終了。寝てリセットして終わる。

(2) 質問5に対する中群の特徴的な言語報告

M1	怖くてぶつかれないって感じ。たぶん。ぶつかるようなことも無い。向こう正論しか言わないから。なんかいつも「すいませんでした」って謝ってる側。私が悪い事したら怒ってくる。大体私が悪い事してる。でも一回だけ親に怒ったことあるよ。今は笑い話なんだけど。それはさすがに向こうが謝ってた。
M2	言い合いっていうよりは一方的に言われる感じですね。反抗期も無いですね。ごめんごめんって謝ってとりあえず終わらせます。実際は違うんだけどなとか思ったりしますね。こっちが悪いことしたら謝ります。悪いことしてなくて怒られたりしたら、謝るっていうより、ああそうなんだ、分かった分かった、みたいな。ちょっと嫌味とか言われたらたまに返す時はあります。たまに。冷静に、こっちは感情的にならずに冷静に言いたい事を言う、みたいな。口喧嘩になりそうだったらそこで終わらせます。
M3	こっちを怒ることはあっても、こっちから文句を言って、反抗するっていうことはあまり無かったのかな。その時の気分にもよるだろうけど、大概、はいはいはい、分かった、っていう風に表面上はちょっと反省した上で、でも結局自我が強いのか、ある程度自分の思った通りにその後はやって、別に特に従わない。どうしても我慢できない時には何も言い返さず、ある程度関係を回復するまではコミュニケーションはあまり取らない。イラッとくる事があると、部屋に行く事が多いかな。今行けそうだろうっていう感覚で話をして、いつも通りに戻る。タイミングが無ければ、無理をしてまで関係をあえて回復しようとアクションすることは無い。

(3) 質問5に対する高群の特徴的な言語報告

H1	お父さんはたまに話し方が嫌味っぽって感じる時があって、そういう時は何でそういう言い方になるの、みたいな感じになると、お父さんも娘のくせになんだよ、みたいになって、お父さんの言い方が悪いからじゃんみたいな感じで揉めたりするんですけど。お母さんもたまにありますね。やられて言われたことやってなくて、わーってなったり。仲直りは自然に、次の日になったら普通に喋るとか。反抗期は無いて言われますね。
H2	喧嘩とかって基本的にあんまり、テキストに流すタイプだから俺は、あんまりしないけど、ある意味では我慢するけど。割と一方的に叱られるみたいな、説教みたいなのが多いから。俺が反論することとか俺から怒ることは無いかな。だから喧嘩とかは全然無いかな。こっちが完全に悪い事だったら謝るけど、そういうんじゃないかな。時間が解決してくれるのを待つ。あんまり関わらないように家早く出たりとか、夜遅く帰ったりとかして。1週間から2週間くらいは喋らないで、突然ふとしたことで喋ったりする。(反論しない理由について) 衝突が面倒臭いかな。議論の事を考えると、面倒臭いから流した方が良くないかなという風に思っちゃうかな。
H3	結構それなりに喧嘩するんだけど、理不尽じゃない？っていうことで怒られて、ごめんってなって、お父さんが勝手に一人で怒ってて。1日経てば、朝起きた頃にはなんとなく、おはよー、みたいな。反抗期は、私が一人でイライラしてたかな。今まで親が、そうした方がいいんじゃないかって言うのが、正しいと自分は思い込んで、親の思うような型にはめられてきた感じがすごいして、いやこっちの方が良いと思うんだけど、って言っても、結果的に曲げられて親の思うようになってたことが多いかな。(親に対してこのことについて) あんま言えない。今更何？みたいな感じになっちゃいそう。
H4	無いです。怒られないようにして生きてるので。面倒臭いじゃないですか。弟は結構のびのび生きてるんで反抗とかするんですよ。そんな口きいたらダメだよとかずってと言われて、ママにもすっごい怒られるんですよ。ちっちゃい頃から。親に向かってそういう風な口開いちゃいけないとか、そういう風なことをちよいちよい言ってるから、そうなんだと思ってやんないようにしてきたっていうか。なんかそういうの多くて、刷り込みみたいなあると思います。一種。素直に聞くタイプなんで、そうなんだ、と。